



ふくろう通信

第 34 号

2014 年 7 月 1 日
自然博物館 ねいの里

ふくろう先生に



ねいの里の近況

野生鳥獣共管理員 赤座 久明

〈傍にいるから、初めて分かること〉

4 月 1 日からねいの里に勤務することになりました、赤座久明です。宜しくお願いします。この新しい勤務地で窓に面した机に向かうと、正面に岬のように細長く伸びた芝生広場があります。そこには高さ 2 メートルほどのポールが 3 本立っていて、7、8、12 などと番号が付いた巣箱が置かれており、シジュウカラが子育てをしています。この原稿を書いている 6 月 11 日には、8 番の巣箱に餌をくわえた親鳥が出入りする様子が見られるようになりました。



3 月まで、目の前が何列にも並ぶ机と書類の山という職場で仕事をしてきた私は、今、目の前に広がるこの風景がかなり気に入っています。コナラやホウノキの緑の深さが日ごとに変わっていくことや、昨日まで聞くことがなかったクロツグミの囀りを今朝初めて聞いたというように、季節の変化を感じる感度が、毎日外で遊んでいた少年時代のレベルに戻りつつあるのを実感しています。いつも傍にいないと分かることができない感覚というのはあるのだと、改めて思うこの頃です。

〈尻尾の長いネズミの話〉

着任早々、私の机の下で事件が起きました。おやつに買い置きしていたチョコレートの袋が休日明けの朝に空になっていたのです。袋に残されていたのは米粒のような小さな糞が 1 つ。明らかにネズミの仕業です。おそらくはハツカネズミで、もしかしたら外の雑木林から侵入したアカネズミの可能性もあります。ハツカネズミ、ドブネズミ、クマネズミは人の居住空間に同居して、時に被害を与える「家鼠（かそ）」で、被害防止の目的なら捕獲許可を得なくてもネズミ捕りで捕まえることができますが、アカネズミのような「野鼠（やそ）」を捕まえるには県知事の捕獲許可が必要なのです。念のため捕獲許可を取ってワナを仕掛け待つこと 2 週間。餌は齧ってあるのですが不思議なことにワナの扉が落ちません。何度も仕掛けを調節して待ち続け、ようやく捕まったのは私の予想を裏切る意外な野ネズミのヒメネズミだったのです。アカネズミより小型で、有峰や美女平のような標高が高く深い森に住み、頭胴長に対して尾長が 1.2 倍ほどもあり、尾が長く茶色の小さな野ネズミです。齧る力が弱いのでワナの扉が開まらず、なかなか捕まらなかった理由も分かりました。ねいの里の標高は約 140 m ですから、私の経験になかでは最も低い場所でのヒメネズミの捕獲記録です。ふつうの里山に見えるねいの里の雑木林ですが、意外に奥深く、気づかない変化が進行しているのかもしれない。これからしばらくは、ねいの里の周辺でネズミの調査をしてみようと思っています。

それにしても森林性のヒメネズミがチョコレートが好きとは……。自然は不思議がいっぱいですね。



ねいの里 ホオホオニュース



ヘビのしっぽはどこだ？

自然博物館ねいの里職員 岡 圭一



展示の様子

ねいの里を訪れる子どもたちと話をすることが多くなったのは、生き物を展示するようになってからだ。生き物を見ている子供たちの〈生き生きした目の輝き〉や、いつまでも飽きずに観察しているその後ろ姿が、なんとも微笑ましい。

小さな子どもたちには、特に解説しないようにして自由にしてもらっているのは、彼らの好奇心に配慮してのことだ。

「触ってもいいよ。」というと、喜ぶ子や嫌がる子の色々な反応があって面白い。

ザリガニを掴もうとしている子に「はさむ？」と聞かれたので、「ハサミがあるからね。」と答えると、尻込みをしている子どもに、後ろからおじいさんが「こうやって掴むんだ」と教えている。こんな体験の中で子どもたちが〈何か〉を感じてもらえれば、この展示は意味のあるものではないかと思う。

ところで、展示している中に〈丸く〉なったり、〈長く〉なったりする生き物がある。嫌がる人も多く、飼育ケース越しや可愛い(?)ぬいぐるみなどを用意して、気を引こうとするが、中々上手くいかない。「何が嫌なの？」と聞いてみるが良く解らないらしい。



ちょっと怖いなあー・・・



これも嫌ですか？

その人たちは、きっと〈ウナギ〉も苦手なんだろうなあーと思いつつ、ヘビのパワーにたじたじになる。

でも、最近は「ヘビのしっぽはどこでしょう？」なんて疑問を投げかけたりして、まあまあの反応かなと一人思う日々である。

興味のある方は、ねいの里で・・・。



活動のふりかえり

春の生き物とデート 平成 26 年 4 月 19 日

天気は上々。50 名の方が春を五感で感じたいと集まってくださいました。
気持ちいいなかを歩きだすと・・・早々に鳥のさえずりが聞こえてきました。春だなあ、春だよ。
木々の芽出しを見て・・・さまざまな形や色に触れてみました。嬉しいねえ、春だねえ。
炭窯の炭で五平餅・・・炭の匂いの中でみんなで一緒に食べた。美味しいねえ、春だよ。
おなか満足した後は、キノコの植菌。美味しいキノコができるのが楽しみでーす。



楽しみは後からやってくる!!! かな??



(野澤 和子)

新緑の里山ハイキング 平成 26 年 5 月 5 日

このハイキングに行かないと、なんとなく「春が来た」感じがしないので毎年参加しています。
「森のようちえん・まめでっぼう」の活動中（週 2 回ねいの里で活動します☆）には、なかなか猫坂峠まで行くことはないの、偵察がてら、という意味もあります。
しかし、下の子が熱を出したので家族で行くことかなわず、6 年生の長女と 4 年の長男を連れて珍しい 3 人組でのデートハイキング。いつもは手などもう滅多につながらないのに、なぜか自然体で二人と手をつなげたのが新鮮でした。

雨予報なるも、小雨は全然たいしたことなく、カッパがむしろ暑いくらいでした。
お恥ずかしながら「トリや花より、団子」な市村家はいつも「なにか食べられるものがあるか」がハイキングのテーマと成り果てております;; 途中の道端に以前見つけた「やぶかんぞう」を見つけられず、次のターゲット? のフキを葉っぱごといただいて、あく抜きもせずごま油で炒めてふき味噌にしたら、とってもおいしかったです。

お昼は囲炉裏で、なんと豪華なだんご汁と焼きたけのこ(〇〇さんの朝堀り!! ありがとうございます♪) と山菜の 3 倍酢漬け(野沢さんと平野さん。いつも元気印の女性の職員のお二人です)。お腹いっぱいになったところで展示館に戻ると、今度は「羊毛でちっちゃな木を作ろう」です。小枝を集めてきて、ツンツク突いて、ミニチュアの松(上手だった!) や広葉樹をみんなで作りました。これは素敵な立体地図ができそうです! でも、もう少し木が必要ですね。また雨の日にもまめでっぼうでお手伝いできないかな、と思ったり・・・。

毎年アットホームな雰囲気、実家が遠い自分たちには、ねいの里での活動はまるで実家に帰ってきたかのような心地よさを味わわせていただき、本当に感謝しています。

(森の幼稚園「まめでっぼう」 市村 敦子)

愛鳥週間・探鳥の日 平成 26 年 5 月 11 日



愛鳥週間恒例の探鳥会を行いました。
天気は快晴。新緑さわやかな古洞池・野鳥の園に集まったのは、総勢 37 人。ホオジロやシジュウカラといったおなじみの鳥を観察しながら出発です。エナガの群れにであった時は感激された人もおられました。

確認できた鳥の種類は例年とほぼ同じで 30 種類でしたが初顔でキアシシギと思われるシギの仲間を観察できました。遠くにいた猛禽を「トビじゃないですねえ」と言っていると、即座に「ハチクマです。」と識別されたベテランさんには脱帽です。私もいつの日かそうなりたいなあ・・・。



キアシシギ (写真はウィキペディアより)

(松崎 勇)

ねいの里の薬草を探そう 平成26年6月1日

講師は村上守一氏（元富山県薬用植物指導センター所長）。昨年10月には秋の薬草を、今回は春の身近な薬草を探すことになりました。

展示館前で講師が紹介され、数歩歩けばもう薬草の森。センダン・クサギ・ニワトコ・キハダ・サンショウと散策路にそって水生庭園まで、色々な植物（約40種）について様々な観点から解説され興味深く聞きました。薬効も花、葉、球根、地下茎、根皮、幹皮、果実と様々で、効能ばかりでなく毒性のあるものもあります。熟知したうえでないと素人が使うのは非常に難しいと感じました。



竹にパン生地を巻き付けて
焼きました

特に興味深かったのは、「冬眠から覚めた熊はミズバショウを食べるのではなく、ザゼンソウを食べているのであり、冬籠りから出てきた熊のお腹は空っぽ」だそうです。また、「因幡の白ウサギ」も薬効の観点から見ると興味ある神話と云うことになります。水生庭園のショウブやガマ、ミクリ等も野生の状態ではなかなか見る事の出来ない非常に貴重な植物であると感心しておられました。大事な財産として残ってほしいと思います。今回の観察会で植物を見る視点に薬草が一つ加わり、楽しみが増えました。

お昼に食べた焼き立てのパンのおいしかったこと！！！！

(ナチュラリスト 湯浅淑子)

ねいの里行事案内

(ねいの里ホームページで活動紹介しています。)

- 6月28日(土)、7月5日(土)、7月12日(土) 17:00～20:00
竹細工とヘイケボタルの観賞 集合場所 ねいの里
- 7月26日(土) 9:00～12:00
トンボの調査と標本作り(夏休みの宿題支援) 集合場所 ねいの里 **定員20名**
- 8月9日(土) 17:00～20:00
夜の昆虫大探検・PART1 集合場所 ねいの里
- 9月13日(土) 17:00～20:00
夜の昆虫大探検・PART2 集合場所 ねいの里
- 9月21日(日) 8:30～16:30
植物観察(白木峰) 集合場所 ねいの里 (生き物ふれあい自然塾主催) **定員16名**
参加希望者はねいの里までお申し込み下さい。

■ 特別展示

- 7月2日～8月4日 自然保護協会「環境写真展」
- 7月12日～8月24日 県内のカブト・クワガタ展
- 8月6日～8月18日 環境月間ポスター展
- 8月27日～9月23日 キリギリスのお宿

■ お願い ■

- 「生き物ふれあい自然塾の会」**会員募集中**
皆さんのお知り合いで、ねいの里をよくご利用される方がおられましたら、自然塾の会への入会をお薦め下さい。会員の方にはねいの里会報「ふくろう通信」をお送りします。
- 会員の駐車場利用について
会員の方は、「ねいの里」行事への参加や施設の利用を前提に、ナチュラリスト駐車場を利用来ます。



発行 富山県自然博物館ねいの里 館長 富永 宣宏
〒939-2632 富山県富山市婦中町吉住1-1
Tel 076-469-5252 / メールアドレス shizen@toyamap.or.jp
ホームページ <http://www.toyamap.or.jp/shizen/>